

# 2018年度 事業報告

社会福祉法人 いのちの電話



# はじめに

昨年も皆様の変わらないご支援と、あたたかい励ましをいただき、いのちの電話の活動を続けていくことが出来ましたことを、厚く御礼申し上げます。

このところ、子どもへの虐待や、家庭内DVの報道を目にすることが多く、相談の現場に関わるものとして心を痛めています。どのような事情があるにしても、弱い立場にある身近な人を、傷つける行為が日常的に行われていたことに、人の心の闇の深さに愕然とする思いです。

しかし、私たちはそれぞれ、欠けを持っています。気が付かないうちに他人を傷つけていることも度々です。わたしたちの社会は、欠けある者同士が互いに支え合いながら、共に生きていくしかありません。

日本のいのちの電話はもうすぐ50周年を迎えます。東京のいのちの電話はこれまで1,800人以上のボランティアが、24時間、365日、いのちの電話の働きを担ってきました。専門家ではない私たちも、相談の体験を通して、悩みを抱える人に寄り添い、支え合っていくことは出来ると、信じています。

東京のいのちの電話では、若い人たちを中心に、電話離れが起きていることを対応して、2006年よりインターネットによる相談も行ってきました。このところ、自殺者が2万人をわずかに超えるまでに減ってきましたが、若い人たちの自殺は減少傾向がみられません。今も、メール相談には若い人たちの苦しい思いが溢れています。

インターネットを利用したメール相談は、ネット環境が目まぐるしく変化することや、セキュリティに十分配慮する必要があることから、想像以上に費用が掛かります。しかし、私たちは、そのような困難を抱えながらも、いのちの電話にできるネット相談を、独自のシステムで続けていくことを決めました。

寂しい思いを抱えながら、孤立している方たちがどんなに沢山いることか、私たちは相談活動を通じて知っています。国や自治体による更なる支援も欠かせませんが、専門家による援助や、ボランティアの活動など、いろんな方面からの支えが求められています。

電話が鳴りやむことはありません。私たちの働きが必要とされている限り、何としまいのちの電話の活動を守りたいと願っています。

これからも、いのちの電話を見守り、ご支援を賜りますよう、こころよりお願い申し上げます。

社会福祉法人いのちの電話  
理事長 穴戸 信次郎

## 目次

はじめに	1
社会福祉法人いのちの電話の基本活動方針	2
2018年度 社会福祉法人いのちの電話概況	2
2018年度 活動内容	3
2018年度 相談の実態とその傾向	4
電話相談	4
土曜医療相談	5
フリーダイヤル	5
インターネット相談	6
2018年度 決算報告	7
2019年度 予算書	7
2019年度 事業計画・役員	8
後援会	9

# 社会福祉法人いのちの電話の基本活動方針

社会福祉法人いのちの電話は、苦悩の多いこの時代にいきるものが互いによりき隣人となって、一人ひとりのいのちを大切にしようという思いから生まれました。

「いのちの電話」は、思いを同じくする多くのボランティア相談員によって「電話」「インターネット」を通じた対話を中心に次に掲げる事項を基本として活動します。

- 一、「いのちの電話」は、すべての人、とくに危機に直面している人、自殺を考えている人、孤独のなかにあつて、助け・慰め・励ましを求めている一人ひとりに向けて開かれています。
- 一、「いのちの電話」は、相談者に対してよき隣人として開かれた心をもち、親身になって対応することを基本とします。
- 一、「いのちの電話」は、相談の秘密を守ります。
- 一、「いのちの電話」は、相談者と相談員の双方の匿名性を尊重します。
- 一、「いのちの電話」は、相談者の思想、信条、信仰等を尊重します。
- 一、「いのちの電話」による電話相談は、無料です。
- 一、「いのちの電話」は、所定の研修を受けた人たちによって一日24時間体制で相談を受付けます。
- 一、「いのちの電話」は、電話相談以外の相談事業についても上記に述べた諸方針で行います。
- 一、「いのちの電話」は、主として寄付によって自主的に運営されています。

## 2018年度 社会福祉法人いのちの電話概況

2019年3月現在

設 立	1971年10月1日開局	活 動 内 容	電話相談 インターネット相談
法 人 認 可	1973年12月		医療相談 フリーダイヤル(毎月10日)
組 織	理事10名・監事2名・評議員13名	相 談 員 養 成	年1回公募
相談員実働数	255名	相 談 員 研 修	継続研修、講座随時
認定者累計	1,827名	運 営 費	年間経費：約3,000万円
電 話 相 談 受 信 件 数	22,194件(2018年1月～12月) 男 8,943件 女 13,251件	機 関 紙	広報誌「いのちの電話—東京」
総受信件数	開局以来累計：1,332,371件	関 連 団 体	一般社団法人 日本いのちの電話連盟 日本自殺予防学会
相 談 時 間	24時間(年中無休)		

# 2018年度 活動内容

## I 実施した研修

- 養成研修(18ヶ月)
  - 51期生(2年目)第III期 ●52期生(1年目)第I期、第II期
- 継続研修(グループ研修2年間単位の1年目)  
22のグループが、情報交換と支え合いを目的に、会話記録等をもとにしたグループスーパービジョンを行う。
- 全体研修 於研修室300A
  - 「電話相談による救急救命の基礎知識」'18年 4/24(火) 講師:今西 真太郎氏(麹町消防署警防課救急係) 参加者:27名
  - 「精神疾患のかけ手への対応」'18年 7/20(金) 講師:菊池 俊暁氏(精神科医 慶応義塾大学医学部精神・神経科学教室) 参加者:30名
  - 「私たちの電話相談を振り返る」'18年 9/1(日) 講師:逸見 敏郎氏(立教大学教授いのちの電話研修委員) 参加者:31名
  - 「お話と音楽の夕べ」生活保護と認知症の話をもぐって'18年 12/4(火) 講師:松尾 隆義氏(リーダー) 参加者:16名
  - 「電話相談の現状報告とその対策～受信カードを読む会からの報告～」'19年 2/2(土) 講師:リーダー会(受信カードを読む会) 参加者:40名
- フリーダイヤル研修
  - 「かけ手の死生観、受け手の人生観」'18年 10/17(水) 講師:伊藤 高章氏(上智大学 大学院実践宗教学研究科教授) 参加者:46名
  - 「自死遺族について」'18年 11/14(水) 講師:若林 一美氏(ちいさな風の会代表) 参加者:31名
- 49期～50期 移籍者及び復帰者フォローアップ研修
  - 講師:樋田 大二郎氏(青山学院大学教授・研修委員) 第1回'18年 10/27(土) 参加者:14名 第2回'18年 11/17(土) 参加者:10名
- スキルアップをはかるための個人スーパービジョン
  - 講師:飯島 睦子氏(元研修委員長) 岩田 淳子氏(成蹊大学教授・臨床心理士) 逸見 敏郎氏(立教大学教授・臨床心理士) 矢永 由里子氏(慶応義塾大学医学部感染制御センター講師・臨床心理士) 池谷清子氏(元研修委員) 参加者:37名
- 特別研修(11期)1年次課程('18年9月～'19年2月) 参加者:7名
- インターネット相談研修
  - インターネット相談員養成研修  
講師:國分 振氏(仙台いのちの電話インターネット相談スーパーバイザー)、福山 清蔵氏(東京いのちの電話インターネット相談スーパーバイザー)  
'18年 7/14～8/25(全4日) 参加者:延べ24名
  - インターネット相談継続研修  
'18年 5/26「シェアリングについて第1回」講師:穴戸 信次郎氏(東京いのちの電話理事長) 参加者:11名、7/22「養成研修DVD学習」参加者:6名、  
10/27「シェアリングについて第2回」講師:穴戸 信次郎氏(東京いのちの電話理事長) 参加者:9名、  
11/24 日本いのちの電話連盟主催「若者支援の現状」講師:伊藤 次郎氏(特定非営利活動団体OVA代表) 参加者:16名  
'19年 1/19 東京・川崎・埼玉合同研修「対応困難なコーラー支援のための事例検討会」  
講師:福山 清蔵氏(東京いのちの電話インターネット相談スーパーバイザー) 参加者:20名  
'19年 2/2 日本いのちの電話主催「事例検討会」講師:東 美佳子氏(日本いのちの電話インターネット相談スーパーバイザー) 参加者:6名
- 継続研修のためのリーダー勉強会 '18年 5/12(土)、6/2(土)、7/7(土)

## II 活動

- 役員会
  - 理事会 第8回～第15回(8回)'18年 4/23、6/11、9/5、10/22、11/21、12/13 '19年 2/18、3/13
  - 評議員会 第4回～第5回(2回)'18年 6/1、11/27
- 研修委員会
  - 委員会の開催(6回)'18年 4/11、6/20、8/27、11/5、'19年 1/9、2/7
  - リーダー会 定例研修会、宿泊研修、継続グループ運営、相談員のケア、スーパービジョンの研修と実施  
'18年 5/29、7/28、9/29、11/30、'19年 1/26、1/27、3/29
- 運営協議会
  - 委員会の開催 第117回～第120回(4回) '18年 5/12、7/14、9/8、11/10
- ボランティア委員会
  - 各継続グループから委員を選出し、隔月に委員会を開催(5回)'18年 5/12、7/14、9/8、11/10、'19年 1/12
  - 相互交流、情報・意見の交換、連絡、行事への参加協力、研修への提案、組織運営への理解と提案等
  - 全体会(毎年3月)の企画・実施 ●内部誌『ボランティア』の発行なし
- バザー委員会
  - '18年度は11/3(土)実施のため、各継続グループから委員を選出 ●後援会に協力して、バザーを企画・実施
- 広報委員会
  - 年2回、機関紙『いのちの電話 東京』を発行('18年度は159号・160号)
- 財務委員会(4回)
  - 財務(予算・決算・その他) ●委員会の開催 '18年 4/18、10/17 '19年 2/9、2/27
- インターネット相談委員会
  - 委員会の開催(5回)'18年6/9、9/3、11/17、12/8 '19年 3/21 ●コーディネーター会 '18年 4/11、7/14 '19年 1/16

## III その他

- 相談員(52期生)の募集
  - 応募者 32名 ●52期生 18名
- 感謝式・全体会('19年 3/10土) 於:富士見町教会
  - 永年勤続感謝:20年(33期)11名、10年(43期)11名 その他10名 ●認定者(51期)7名 ●全体会:出席者:約80名
- 厚生労働省事業への参加協力('18年1月～12月)
  - 補助事業「自殺予防フリーダイヤル」に参加 期間:毎月10日(朝8:00～翌朝8:00)専用電話1本 参加者延人数:114名 受信件数:705件
  - 「いわさきちひろの世界 いのちと平和」一生涯100年記念-'18年 10/6(土)  
講師:いわさきちひろ美術館・東京元副館長 松本 由理子氏 場所:YMCA 青少年センター 地下スペースY 参加者:74名
- その他 苦情対応 事務局で対応 相談事業に対する苦情37件 ('18年1～12月)

# 2018年 相談の実態とその傾向

## 電話相談の統計から

2018年(1~12月受信)の電話相談は、22,194件(男性8,943、女性13,251)であり、男女比は女性からの相談が多いがこれまでの傾向に変化は見られなかった。自殺傾向は前年度とほぼ変わらない。また相談を利用した年代は40代が最も多く、次に50代、60代と高齢化が見られた。受信件数は、相談員一人当たりの相談件数が増加傾向にあるものの、昨年同様相談員が減少したために若干減少した。相談内容としては、厳しい社会状況のなかで複数の問題を同時に抱え孤独で苦しい状況を訴える深刻な相談も多く寄せられた。

\*平均通話時間:29分(男性24分、女性33分)

表1 電話相談 年代別件数

	男性	女性	2018年 合計	2017年 合計
10代	138	106	244	315
20代	582	670	1,252	1,564
30代	1,555	1,997	3,552	4,181
40代	2,203	3,415	5,618	5,832
50代	1,940	3,248	5,188	5,704
60代	1,501	2,376	3,877	4,100
70代	200	690	890	856
不明	824	749	1,573	1,583
合計	8,943	13,251	22,194	24,135

図1

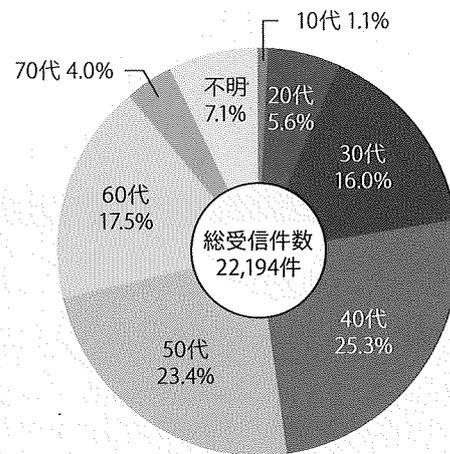
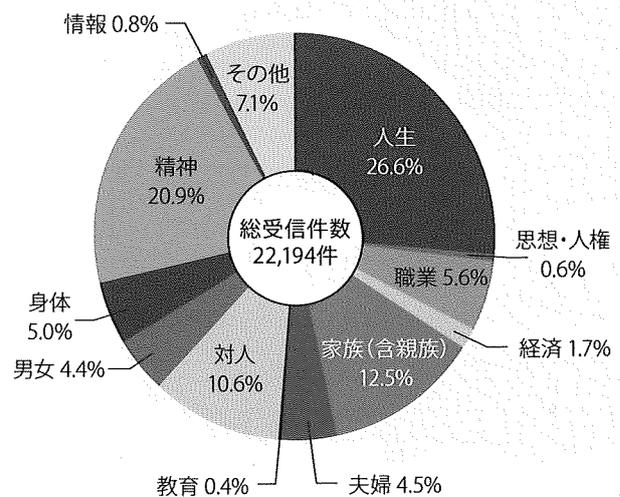


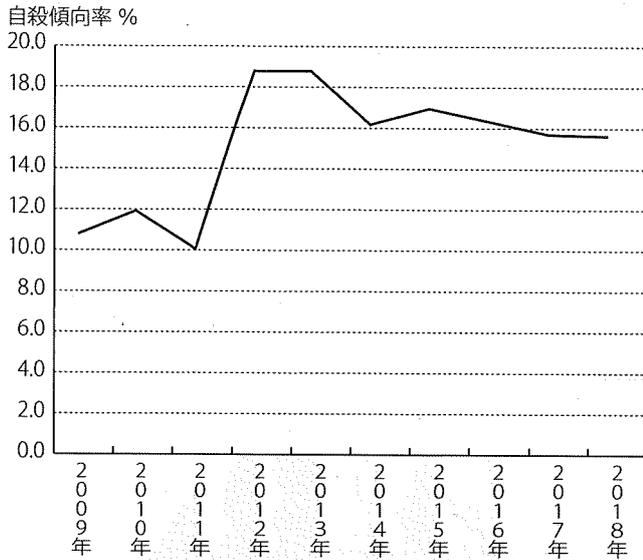
表2 電話相談 問題別件数

	男性	女性	2018年 合計	2017年 合計
人生	2,537	3,377	5,914	6,168
思想・人権	90	53	143	110
職業	672	561	1,233	1,242
経済	214	167	381	393
家族(含親族)	521	2,244	2,765	2,906
夫婦	189	814	1,003	1,025
教育	31	50	81	113
対人	735	1,614	2,349	2,492
男女	404	563	967	1,112
身体	378	734	1,112	1,315
精神	1,989	2,645	4,634	5,417
情報	97	87	184	161
その他	1,086	342	1,428	1,681
合計	8,943	13,251	22,194	24,135

図2

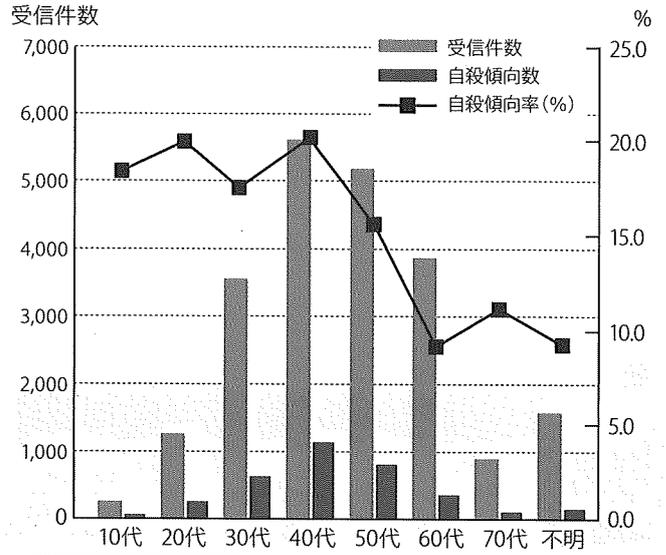


【図3】電話相談 10年間の自殺傾向率



	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
受信件数	29,551	28,987	28,377	27,517	28,276	28,164	27,161	25,443	24,135	22,194
自殺傾向率(%)	10.9	12.1	10.2	18.8	18.8	16.1	16.9	16.3	15.9	15.6

【図4】電話相談 年代別受信件数と自殺傾向率



	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	不明
受信件数	244	1,252	3,552	5,618	5,188	3,877	890	1,573
自殺傾向数	45	251	622	1,133	807	353	99	144
自殺傾向率(%)	18.4	20.0	17.5	20.2	15.6	9.1	11.1	9.2

## 土曜医療相談

カトリック医師会、キリスト者医科連盟等の医師により毎週土曜日14時～17時に行われている。

昨年度相談件数は299件(男性115名、女性184名)(男性38%、女性62%)。月毎の平均通話数は約25件である。医療情報がネットなどで容易に得られることが影響してか、相談件数は減少傾向にあった。

科目別では、精神科に関連した相談が4割強を占め、全体に治療中からの相談が多い。

反復してかけてくる方が多く、疾患・医療そのものの他に、医師との関係性や病を持っているための生きにくさなど、複合的な相談がほとんどである。希死念慮のある方は少ないが、医師が直接電話で対応することで、疑問や不安を解消したり、治療意欲を持ち直すなどの支援につながることを期待したい。

【科目別】 2018年1月～12月

	男性	女性	合計
精神科(心療内科)	59	74	133
内科	42	84	126
外科(整形外科)	2	5	7
婦人科・産婦人科	0	0	0
泌尿器科	2	0	2
皮膚科	1	5	6
耳鼻科	0	2	2
歯科	3	6	9
眼科	1	6	7
小児科	0	1	1
性について	3	0	3
エイズ	0	0	0
健康相談	0	0	0
美容整形	0	0	0
その他	5	11	16
合計	118	194	312

\*複数回答あり

【月別相談件数】 2018年1月～12月

	男性	女性	合計
1月	6	15	21
2月	11	14	25
3月	8	11	19
4月	8	8	16
5月	12	13	25
6月	13	25	38
7月	8	23	31
8月	4	11	15
9月	15	17	32
10月	15	22	37
11月	7	11	18
12月	8	14	22
合計	115	184	299
2017年度			311
2016年度			364

## フリーダイヤル

毎月10日、全国のセンターをオンラインでつなぎ、フリーダイヤルで電話を受けている。通常電話より自殺傾向が高いこと、男性からの相談が多いことが特徴である。

	男性	女性	2018年合計
相談件数	364	341	705
自殺傾向数	79	93	172
自殺傾向率(%)	21.7%	27.3%	24.4%
平均通話時間(分)	16	21	18

2018年1月～12月

## インターネット相談

インターネット相談は、埼玉いのちの電話の運営管理により、埼玉、東京、川崎センターの共同で東京システムとして実施した。

相談受信件数は、全体で1,213件(男性293件、女性920件)自殺傾向率は37.4%。10代から30代の若年層からの相談が約7割(67%)であり、対応に苦慮する深刻な相談が多く寄せられた。うち東京センターが対応した相談は491件であった。

また、2017年10月より本稼働された日本いのちの電話連盟によるインターネット相談事業(新システム)は、盛岡、仙台、秋田、新潟、栃木、埼玉、東京、川崎、静岡、浜松、愛知、奈良、愛媛、福岡センターにより実施した。新システムを含む相談受信件数は全体で1,617(男性494件、女性1,108件、その他15件)自殺傾向率は51.5%と高い傾向であった。うち東京センターが対応した相談は112件であった。

図5 インターネット相談年代別

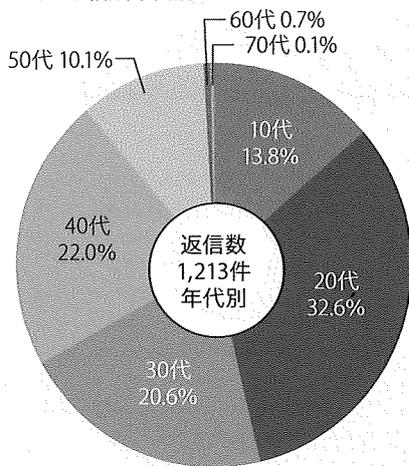
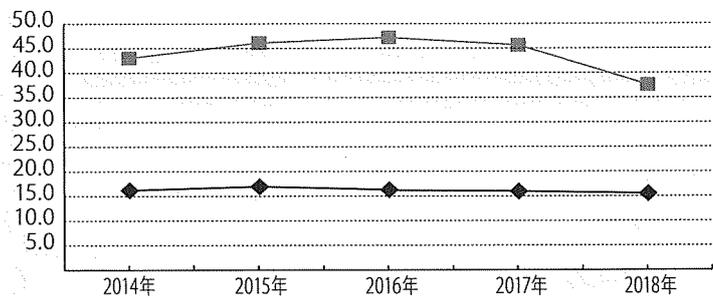


図7 過去5年間の電話相談とネット相談の自殺傾向比較



	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
電話相談	16.1	16.9	16.3	15.9	15.6
ネット相談	43.0	46.1	47.4	45.8	37.4

2018年1月～12月

図6 インターネット相談問題別

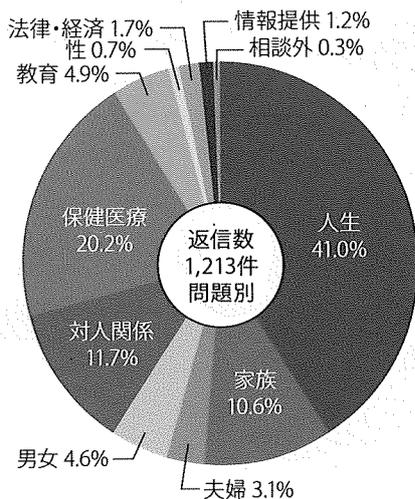
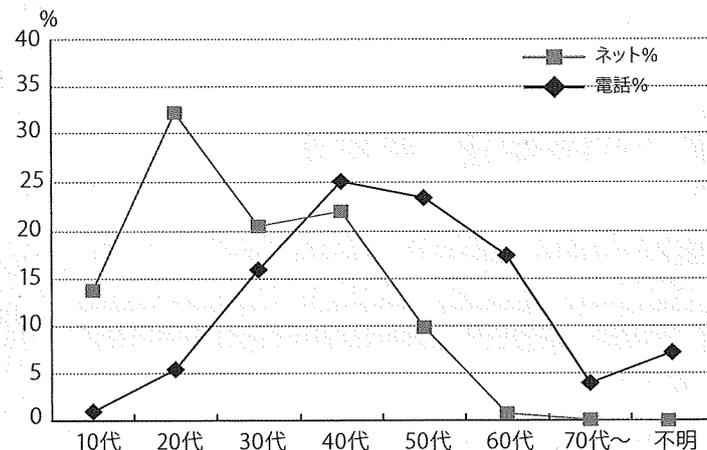


図8 電話相談とネット相談利用者の世代別比較



2018年1月～12月

# 2018年度 決算報告

## 2018年度 経常会計収支決算書 (自2018年4月 至2019年3月)

単位:円

収入の部	
科目	金額
賛助(団体)	10,177,974
賛助(個人)	8,194,038
東京都公的補助金	1,825,000
共同募金・年賀寄付金分配金	300,000
後援会チャリティ寄付	1,000,000
研修受講料	1,239,500
利息・雑収入等	198,513
経常収入総合計	22,935,025

単位:円

支出の部	
科目	金額
施設管理費	6,042,078
相談員研修・ボランティア厚生費	2,546,980
連盟連帯費	1,709,000
通信費・交通費	1,698,478
広報印刷費・調査研究費	339,064
システム運用費	684,240
事務費・人件費等	9,711,780
什器備品費	267,283
当期収支差額	△ 63,878
経常支出総合計	22,935,025

## 2018年度 貸借対照表 (2019年3月31日現在)

単位:円

借方		貸方	
科目	金額	科目	金額
現金預金	113,710,339	事業未払金	477,003
仮払金	266,945	預り金(公租公課・他)	84,837
基本財産特定預金	100,000,000	基本金	100,000,000
建物構築物	1	その他積立金	73,002,299
電話権利	1,355,020	固定資産基金	3,193,539
差入保証金	1,838,518	正味財産増減差額 (うち当期活動収支差額)	40,413,145 (△ 63,878)
合計	217,170,823	合計	217,170,823

### 監査報告

社会福祉法人いのちの電話の2018年度(平成30年4月1日～平成31年3月31日)における財務諸表および付属明細書、並びに附属明細書の各事項について、社会福祉法人会計基準により監査したところ、その内容は適正かつ正確なものと認めます。

定款等諸規定にもとづく業務ならびに総勘定元帳、伝票、証拠書類についても監査した結果、適切に執行されているものと認めます。

事業報告またはその付属明細書は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。

理事の職務執行に關する不正の行為または法令もしくは定款に違反する重要な事実は認められません。

平成 31 年 4 月 18 日

社会福祉法人 いのちの電話

監査 富部 匠希  
監査 中村 清純

# 2019年度 予算書

## 2019年度経常会計収支予算書 (自2019年4月 至2020年3月)

収入の部		単位:円
科目	金額	
賛助(団体)	10,250,000	
賛助(個人)	7,100,000	
東京都公的補助金	1,825,000	
後援会チャリティ寄付	1,500,000	
共同募金分配金等	600,000	
研修受講料等	1,970,000	
利息・雑収入等	61,000	
財政基金積立金取崩	3,000,000	
減価償却基金積立金取崩	900,000	
経常収入総合計	27,206,000	

支出の部		単位:円
科目	金額	
施設管理費	5,967,000	
相談員研修・ボランティア厚生費	3,931,000	
連盟連帯費	1,364,000	
通信・交通費	1,852,000	
広報印刷費・調査研究費	340,000	
システム運用費	1,045,000	
人件費等	9,206,000	
一般管理費等	2,601,000	
減価償却費	900,000	
経常支出総合計	27,206,000	

# 2019年度 事業計画・役員

## I 基本方針

1. 相談事業の安定的な実施
2. 相談体制の充実と強化
3. 組織の整備と運営の適正化
4. 活動への理解と支援拡大に向けての取組
5. 社会・外部組織との積極的な関係作り

## II 具体的活動計画

1. 相談事業の安定的な実施
  - 1) 電話相談 ●電話相談の年中無休24時間体制を維持継続する。
  - 2) インターネット相談 ●インターネットによるメール相談を維持継続する。
  - 3) 土曜医療相談 ●協力医師による毎週土曜日の電話医療相談を継続する。担当者の相談検討会を実施する。
2. 相談体制の充実と強化
  - 1) 相談活動の現状の問題点を洗い出し、組織全体での問題意識を共有する。
  - 2) 組織の役割と活動内容の再確認  
変化しつつある社会の中での相談活動の役割を再認識し、いのちの電話の理念に基づいた、相談活動の継続・拡充に向けて議論する。
  - 3) 電話相談員の募集・養成体制の見直し、養成研修の定着を図る。  
募集要項を毎年掲示することで、周知機会増大と応募意欲の促進を図り、相談員の拡充を目指す。
  - 4) 相談員の意欲の維持・強化を図るため、相談員同士の交流を深める。
  - 5) 電話相談員のケア体制拡充を検討する。
  - 6) 電話相談員の継続研修の見直しを検討する。
  - 7) 電話相談員の誓約事項の遵守と、活動内容の活性化を図るための施策を検討する。
3. 組織運営の整備と運営の適正化
  - 1) 構造改革の実施 ①組織の直面する諸課題に対処し、社会福祉法人としての使命を十全に果たすため、先見力・発信力を重視した組織運営を志向しつつ、具体的施策を立案・実行する。 ②事務局体制の改革 ③社会福祉充実計画のフォローアップ ④創立50周年に向けた記念事業等の検討
  - 2) 改正社会福祉法の趣旨に沿って、内部統制の充実を図り、組織の最適化や定款細則等諸規定の整備を推進する。
  - 3) 相談員が組織運営に主体的に関われるような開かれた体制作りを目指す。
4. 活動への理解と支援拡大に向けての取組
  - 1) 健全な財政を維持するための募金
  - 2) 後援会主催のチャリティ行事等の実施への協力
  - 3) 広く理解、支援を得るために、講演会や説明会などの積極的な広報活動に取り組む
    - ・ 広報誌(事業報告、寄付感謝報告を含む)の年2回発行
    - ・ いのちの電話活動の周知を目的に、講座プログラムを作成し、学校や企業に向けて講座を開催する。
5. 社会・外部組織との積極的な関係作り
  - 1) 各種の相談ネットワークとの関係づくり、紹介先の再検討  
自殺予防支援ネットワーク(東京都主催)との連携協力
  - 2) 日本のちの電話連盟及び、他のセンター等との連携、協力
    - ①2019年度厚生労働省補助事業自殺防止対策事業参加  
●毎月10日 8:00～翌日8:00に実施されるフリーダイヤルへの参加 ●第44回日本自殺予防シンポジウムへの参加
    - ②第36回いのちの電話相談員全国研修会岡山大会への参加

## 役員等名簿

2019年6月1日

任期(理事・監事・顧問) 2019年5月20日～2021年定時評議員会終結時		任期(評議員) 2017年4月1日～2021年定時評議員会終結時	
理事 計11名		評議員 計12名	
大瀧 京子	(社福)いのちの電話ボランティア	石島 武一	(社福)聖ヨハネ会桜町病院名誉院長、 日本カトリック医師会名誉会長、医療相談
大西 連	(認定NPO法人)自立生活サポートセンター・ もやい 理事長	神田 佳和	(社福)いのちの電話ボランティア
岡村 五十男	いのちの電話後援会会長	北川 逸英	日本ルーテル教団杉並聖真ルーテル教会牧師
小澤 康司	立正大学心理学部教授	清水 和良	(社福)荒川区社会福祉協議会
倉本 英彦	精神科医師	高瀬 幸子	産婦人科医師、順天堂大学・ 東京女子大学非常勤講師、医療相談
栗原 郁男	(社福)いのちの電話ボランティア	谷口 尋子	(社福)埼玉いのちの電話理事
郡山 直	(社福)いのちの電話事務局長	樋田 大二郎	青山学院大学教育人間科学部教授
佐藤 治隆	弁護士	藤盛 勇紀	日本基督教団富士見町教会牧師
末松 渉	末松TAコミュニティ研究所所長、臨床心理士、 (社福)いのちの電話研修委員長	望月 和子	(社福)いのちの電話ボランティア
長谷部 俊治	(社福)いのちの電話ボランティア	矢田部 千佳子	(社福)いのちの電話ボランティア
逸見 敏郎	立教大学文学部教授	矢永 由里子	慶應義塾大学医学部感染制御センター特任講師
		山崎 隆	(社福)いのちの電話ボランティア
監事 計2名			
富部 直希	税理士		
中村 清純	水町保険診療所医師		
顧問:	朝居 健(税理士)、福山 清蔵(立教大学名誉教授)		

50音順敬称略

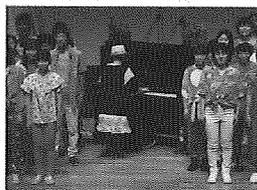
## 後援会

いのちの電話後援会は、社会福祉法人いのちの電話の財政基盤を支え、支援の輪を広げるため、また相談員をはじめとする会員相互の親睦を図ることを目的として組織されています。

寄付金募集の協力、広報活動、財政支援事業（チャリティバザー・映画会・コンサート等）の実施、センター内での相談員の便宜を図るために関連図書や古本の販売、また書き損じ葉書、未使用切手の収集を行っています。

### 2018年度 チャリティ事業報告

- 8月9日(木)被爆ピアノコンサート“未来への伝言”(於:文京シビック小ホール)  
開催当日は長崎原爆記念日でもあり、いのちの電話関係者だけでなく、一般の方たちなど、多くの方が来場されました。広島原爆投下で傷つき修復されたピアノが奏でる音楽は、美しく力強い響きで心打つものでした。朗読の場面ではじつと聴き入る人たちの姿が見られました。高校生たちの歌や踊りの元気溢れるパフォーマンスからは、平和への祈りが次の世代へ伝わっていることが窺われました。会場は昼・夜の部共ほぼ満席となりました。収益だけでなくいのちの電話の活動をポスターや録画等で知って頂く広報活動にも力を入れました。
- 11月3日(土)バザー(於:東京ルーテルセンター)  
毎年、東京ルーテルセンターのご協力で場所を提供して頂き、バザーを行っています。開催は収益が大きな目的ですが、会員をはじめ近隣の方達との親睦も兼ねています。販売品は、企業からの寄贈品及び相談員からの献品です。当日は天候に恵まれ、爽やかな日となりました。地域の方、OB・OG、いのちの電話関係の方等を含め、多くの方々が集まり、例年になく盛況ぶりとなりました。品物が順調に売れ、最終収益は上々でした。
- 2月9日(土)映画会「はじめてのおもてなし」(於:東京ウイメンズプラザホール)  
雪が降り寒い中、お客様に会場へ足を運んでいただきました。難民問題や家族を描いた映画で、人と人との繋がりや生き方について考えさせる内容でした。笑いが起きるなど楽しい映画でもありました。悪天候の為か、残念ながら会場には空席が多くあり、思ったほどの収益とはなりませんでした。映画会は、大変好評のもとに終了しました。



### 2018年度 活動実績

- 被爆ピアノコンサート: 約70万円
- バザー収益: 約107万円
- 映画会収益: 約18万円
- その他物品販売: 約2万円

2018年度 寄付実績  
社会福祉法人いのちの電話へ150万円寄付

2019年度 チャリティ事業計画

- 9月27日(金)パイプオルガンコンサート(夜1回公演)  
会場: 霊南坂教会
- 10月19日(土)チャリティバザー 10:30~13:30  
場所: 東京ルーテルセンター

所在地: 社会福祉法人いのちの電話内

### 後援会役員

任期 2018年4月1日から2020年3月31日

2019年4月1日

理事等 計17名	(名誉会長)	田部 誠	三崎 由美子	神田 佳和	(名誉顧問)	監事 計2名	新井 英明
	高村 治子	浅見 正博	渡邊 富子	野田 芳朗	中村 武照		正野 建樹
	(会長)	岡内 泰子	上村 明子	野呂 雅彦	小澤 格		
	岡村 五十男	徳川 信子	各務 啓子	郡山 直	山田 忍		

## ご支援ください

いのちの電話は、相談員の無償の奉仕で支えられていますが、研修費、広報、事務費、借室料など年間約3,000万円の運営費が必要です。その運営費の大部分が皆様からの尊いご寄付に頼っています。

ご寄付は個人、法人ともに税制上に優遇措置があります。  
皆様からのご支援をどうぞ宜しくお願いいたします。

寄付の  
送金先

【郵便振替】 00140-3-162972 社会福祉法人いのちの電話

三菱UFJ銀行 神保町支店 普通 1084827  
社会福祉法人 いのちの電話





電話相談

▶ 03-3264-4343



インターネット  
相談

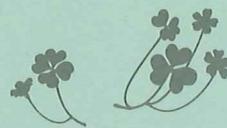
▶ <https://www.inochinodenwa-net.jp/>



フリーダイヤル

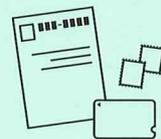
▶ 0120-783-556

「自殺予防いのちの電話」毎月10日



### ●未使用ハガキ・未使用切手を送ってください

書き損じハガキや年賀状・暑中見舞いなど、使い道がなくなって家で眠っているハガキや未使用切手はありませんか。私たちの活動に大きな助けとなります。よろしくご協力お願い致します。



社会福祉法人 いのちの電話

2018年度事業報告

[発行日] 2019年6月  
[発行者] 宍戸 信次郎

[事務局] 〒102-0071  
飯田橋郵便局留

[TEL] 03-3263-5794 [FAX] 03-3264-4949  
[HP] <http://www.indt.jp/>